

活動報告

2015年5月10付号

日本共産党
前市会議員

とがし豊



皆様のご意見をお寄せください！発行・日本共産党京都左京地区委員会 電話・761-6341(自宅Tel771-7847)

日誌

【3月】1日新婦人雛祭カフェ／2日市会本会議、予算特別委員会局別質疑開始（～9日）6日新婦人左京支部学習会、オール介護懇談会／7日左京自主防災表彰式、松ヶ崎保育園増築竣工式、バイバイ原発きょうと集会／8日四錦小学校演説会／10日錦林後援会植物園散策会／11日東日本大震災被害者追悼集会、どうなるどうする京都の保育・学童保育実行委員会との懇談会／12-13日市長総括質疑／13日「地方創生で地域は再生するか」岡田知弘先生／15日川東学区総合防災訓練（消防団員として）／16日市会経済総務委／17日議運理事会／18日団会議／19日討論結了・議運／20日閉会本会議、京建労分会総会（吉田、三錦）、錦林学区演説会／21日ピースアピール／23日京建労松ヶ崎分会総会／25日京都信用保証協会理事会／27日哲学の道一斉清掃／29日青年雇用企画

【4月】3～12日市議・府議選／15日京都市ゴミ減量めぐる君推進友の会総会／16日民商新洞川端支部役員会／18日花と緑の市民フェア、下鴨神社問題学習会／19日消防団山林訓練／20～24日宮本宇治市議支援／25日京都ばら会例会／26日京建労左京支部大会／29日熊野神社神幸祭警備（消防団員として）、任期満了。

選挙での「ご支援」ご協力に心から感謝申し上げます。

四月に行われた一斉地方選挙で、「ご支援」ご協力をいただいた皆様に心から感謝申し上げます。日本共産党は



5/1 メーデーに参加する私

多くの方から「今後どうするのか」とご心配いただきましたが、四月二九日をもって任期満了となり、五月一日からは党職員に復帰し、四年後を目指し新たな生活・活動を再開することとなりました。

全国的に躍進し、府会では議会第二党（一四議席）へ、市会では自民党まであと三議席まで迫る一八議席と存在感の大きい第二党へと躍進しました。左京では、府議選では光永府議がトップ当選、市議選では加藤市議（当選）・樋口市議（当選）と私（次点）はそれぞれ得票を伸ばし三候補計で、自民党を大きく上回り引き続き左京第一党に。府会も市会も定数削減のもと、市民の暮らしを守るためには府会一議席・市会三議席はどうしても必要と考え、背水の陣で挑んだ選挙でした。皆様のご支援によりあと一歩とこるまで迫りながら、議席を守りぬくことができなかったことは痛恨の極みであり、誠に申し訳ありませんでした。選挙後寄せていただいた多くの助言を受け、めながら、自らの活動を深く

総括しているところです。その中で、今回寄せられた一票一票に、いかに切実な願いが託されていたのか、改めて痛感しています。議員バッチはなくとも、一人の政治家として、安倍政権の暴走ストップ、市民の暮らしを守る公約実現のため、これまでに以上力を尽くします。

市・美観風致審議会を傍聴。下鴨神社マンスション問題で異論が続出—ご報告します。

四月二三日、美観風致審議会景観専門小委員会を傍聴しました。下鴨神社へのマンスション建設問題の審議です。委員からは「第一期・第二期は復元中心なのに今回の第三期の計画は別物というのはいかしくない」「B3棟（南端の棟）によって『糺の森』の連続性が途切れる可能性がある」「予定地にある駐車場

や倉庫はどこに行くのか。「世界遺産コアゾーン」への倉庫建設が報道されているが、新たに駐車場をつくると環境負荷になる」「イコモス（世界遺産諮問機関）が理解したというが具体的にどう答えたか」「敷地内の樹木は誰が維持管理するのか」次々と異論や質疑が出されました。しかし、京都市はすべてについて回答困難に陥り、次回までに調べ直し報告することに。世界遺産である以上、周辺住民の合意はもとより、神社形成過程から今日・将来にわたる歴史的なスケールでの検証が必要であることを痛感。先日、「世界遺産・下鴨神社と糺の森を考える市民の会」が結成されました。非常に難しい問題ですが、住民の皆さんの声を丁寧聞きながら、私自身もこの問題に取り組みます。

雑記帳・近況

本来であれば、一刻も早くすべてのご支援いただいた皆さんにご挨拶にいくべきところですが、十分にできていないことをお詫び申し上げます。選挙後も、安倍政権の戦争立法や改憲の企みをくい止めるべく、地方選挙後半戦の支援、「改憲の予行演習」と橋下大阪市長が位置づけている「住民投票」で「反対」することをよびかける運動の支援などかけずり回りつつ、ご挨拶にまわっているという状況です。しかし、時間をかけてでも必ず一軒一軒のお宅を回ってご挨拶に伺いたいと考えております。二期八年にわたる皆さんのご支え、選挙でのご支援に改めて感謝申し上げますとともに、四年後にむけ全力を尽くす決意です。

市政を動かす



消防団に予備の活動服の配備を実現

京都市から各消防分団に対し、予備活動服の注文をもとめる通達が出されました。多くの消防団員の皆さんから「長期の災害出動の時、着替えがなくて困った」という声が寄せられ、党議員団あげて繰り返し議会で求めていました。全員には行き渡らない不十分なものですが、さらなる充実へ向けて再選した議員と連携し取り組みます。